

琉球大学学術リポジトリ

平成18年度琉球大学生涯学習教育研究センター事業 報告

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学生涯学習教育研究センター 公開日: 2008-07-10 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/6628

平成18年度琉球大学生涯学習教育研究センター事業報告

平成18年度における生涯学習教育研究センターの事業は以下の通りである。

1. 公開講座

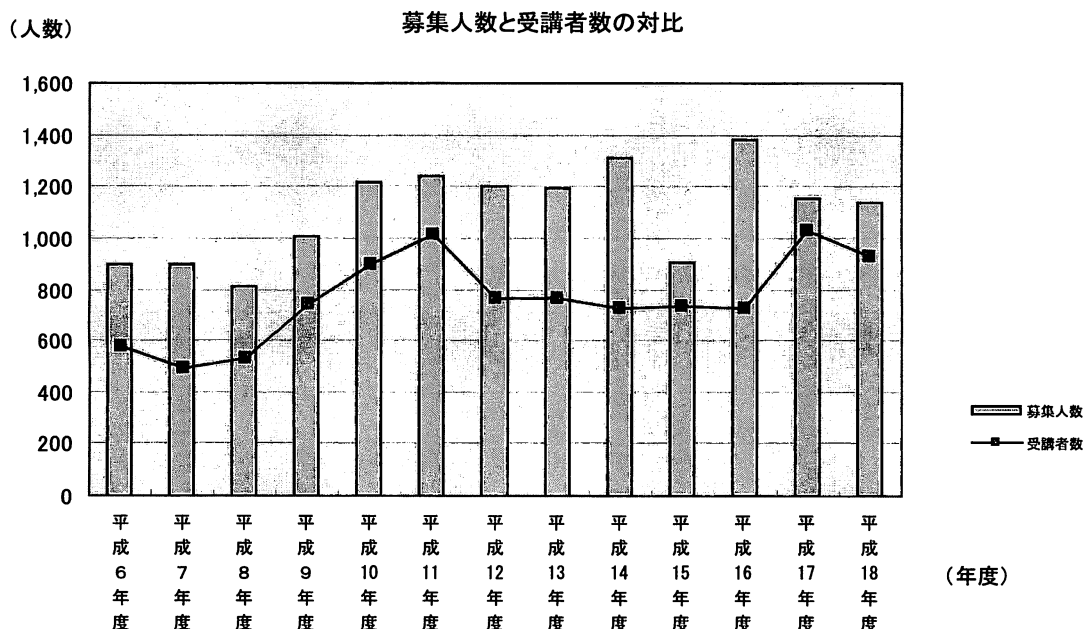
平成18年度の公開講座は、専門コース10講座、一般コース12講座を実施した。受講者総数は932名であり、充足率は80%を超えるものであった。

今年度の公開講座事業は、例年に比べ専門コースの充実が図られ、小中高の学校教員や養護学校教員、福祉・医療施設の専門家、県内看護職（看護師・保健師・助産師・養護教諭）、技術者、カウンセラー、県内の企業関係者を対象とした多くの講座を実施した。

特筆すべきは、専門コース10講座のうち、保健管理センターや地域共同研究センター、大学教育センターと言ったセンターから5講座の提供を頂いたことである。学部と比較して極端に教員数の少ない諸センターであるが、対外的な関わりが大きい日常業務のなかで、大学の社会貢献に対する理解と使命感が醸造されているのであろう。また、受講料を抑えているとは言え、決して安価ではない専門コースに多くの受講者を得たことは、琉球大学が提供する高度な学習機会への需要の高さを示している。県民の教養を高める一般コースとともに、今後も整備・充実を図っていきたい。

一般公開講座 年度別状況

年度別	平成6年度	平成7年度	平成8年度	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度
講座数	24	24	24	18	19	26	28	26	28	16	25	20	22
延べ時間	389	413	314	350	387	315	373	463	405	292	431	398	531
募集人数	900	900	815	1,005	1,219	1,239	1,205	1,196	1,313	905	1,380	1,156	1,136
受講者数	577	488	530	743	894	1,018	762	767	726	733	727	1,030	932



平成18年度
琉球大学一般公開講座実施状況

講座区分	学 部	講 座 名	実 施 月 日
専 門 コ ー ス	農 学 部	沖縄における土地開発と保全	6月13日～6月13日 1日間
	保 健 管 理 セ ン タ ー	心理リハビリテーション—障がい者のための生涯発達援助 法の実践A—	5月8日～7月10日 10日間
		心理リハビリテーション—障がい者のための生涯発達援助 法の実践B—	10月23日～1月15日 10日間
		心理リハビリテーション—障がい者のための生涯発達援助 法の集中実践講座—	12月26日～12月28日 3日間
	法 文 学 部	次世代型マーケティング講座	7月1日～7月29日 5日間
	地域共同研 究センター	大学と産業振興	10月12日～2月8日 15日間
	教 育 学 部	交流分析理論による学級経営・カウンセリング	8月21日～8月23日 3日間
	医 学 部	私にもできる看護研究：はじめての研究発表にむけて (A組)	6月10日～7月8日 3日間
		私にもできる看護研究：はじめての研究発表にむけて (B組)	12月9日～1月13日 3日間
	大 学 教 育 セ ン タ ー	教員のための教育統計講座～統計ソフトSPSSを用いた学 校調査	11月5日～12月10日 6日間
一 般 コ ー ス	法 文 学 部	琉球・アジア研究入門	7月23日～7月29日 6日間
	教 育 学 部	小・中学生のためのハンドボール教室	4月15日～3月3日 19日間
		親父のための健康サッカー講座	4月16日～3月4日 24日間
	法 文 学 部	暮らしを向上させるインターネット活用術	6月10日～6月11日 2日間
		世界に発信！ ホームページ作成術	7月8日～7月9日 2日間
	教 育 学 部	高校生のためのカウンセラー養成講座	8月12日～8月12日 1日間
	理 学 部	分子の世界をのぞいてみる	8月16日～8月18日 3日間
	医 学 部	ここが知りたい更年期の泌尿器科 (阿嘉島)	7月1日～7月1日 1日間
		ここが知りたい更年期の泌尿器科 (座間味島)	7月1日～7月1日 1日間
		がん患者・家族を癒す緩和ケアの実際	9月2日～9月1日 1日間
		母と子の月経教室	3月24日～3月24日 1日間
工 学 部	心がつくる人生 (理論道徳実行の大切さを学び、豊かな人 生を実現しよう)	1月13日～1月14日 2日間	

2. 公開授業

琉球大学の学生に向けた正規の授業を県民にも公開するのが公開授業である。平成18年度の公開授業は全67科目、昨年度と比較して8科目増加している。受講者数は70名、開設科目に対して決して多い人数ではないが、受講の機会が広く用意されているということは、重要なことであろう。

平成18年度公開授業一覧

No.	学部	授業科目	学期
1	法文学部	法学概論	前学期
2		基礎社会保障法	後学期
3		国際政治学	前学期
4		マーケティング原理 I	"
5		哲学基礎演習 I	"
6		倫理学基礎演習 I	後学期
7		教育の社会史	"
8		沖縄民俗文化論	前学期
9		琉球語学概論 I	"
10		メディアの英語 I	"
11		思考の論理入門	"
12		思考の論理	後学期
13		生命倫理	"
14		法と社会	前学期
15		戦争と平和の諸問題	"
16		現代社会のしくみ(2組)	"
17		死と哲学の知	"
18		科学と擬似科学	"
19		科学と擬似科学	後学期
20		フランスのことばと風物	前学期
21		基礎スペイン語 I	"
22		基礎スペイン語 II	後学期
23		ウチナーグチ入門(初級)	前学期
24		ウチナーグチ入門(中級)	後学期
25		基礎ドイツ語 I	前学期
26		基礎ドイツ語 II	後学期
27		教育学部	経済地理学特殊講義 II
28	理科教育法 A〔3組〕		前学期
29	技術科教育法 A		後学期
30	住生活学 I		前学期
31	家庭科教育法 C		後学期
32	児童心理学		"

33	教育学部	栄 養 学 総 論	前学期
34		栄 養 生 化 学	後学期
35		特 別 活 動 に 関 す る 研 究	前学期
36		特 別 活 動 に 関 す る 研 究	後学期
37		美 術 っ て 何 ？	”
38		陶 芸 の 世 界	前学期
39		大 学 教 育 入 門 一 社 会 編 一	”
40		理学部	地 震 学
41	グ ロ ー バ ル ・ テ ク ト ニ ク ス		”
42	テ ク ト ニ ク ス		前学期
43	初 等 量 子 力 学		”
44	量 子 力 学		後学期
45	量 子 力 学 演 習		”
46	相 対 論		前学期
47	熱 帯 生 物 科 学 概 論		”
48	地 球 の 科 学		”
49	地 球 の 科 学		”
50	海 洋 の 科 学		”
51	時 間 と 空 間		”
52	人 間 と 物 理 学		後学期
53	台 風 一 自 然 と 風 土		”
54	地 球 科 学 I		前学期
55	物 理 学 I (1 組)		”
56	物 理 学 I (5 組)		”
57	物 理 学 II		後学期
58	物 理 学 II		”
59	化 学 I		前学期
60	化 学 II	”	
61	医 学 部	が ん 看 護 論	後学期
62	工 学 部	自 然 言 語 処 理	”
63		先 端 情 報 工 学 概 論	”
64	農 学 部	肥 料 と 環 境	”
65		動 物 生 態 学	前学期
66		進 化 生 態 学	後学期
67	大学教育センター	総 合 特 別 講 義 I ー 大 学 で 何 を 学 ぶ か ー	”

3. 高大連携事業

中等教育と高等教育の接続問題の解消、さらには、大学への進学に対する明確で主体的な選択を可能とするための取り組みが、高大連携事業である。本センターでは、大学教育センターと共同で、この事業の発展に資する研究プロジェクトを実施してきた。

県内の高校及び高校生を対象としたアンケート調査の報告は他に譲るが、いずれのデータからも本事業に対する大きな期待が寄せられている。今後も整備・充実に努めたい。

平成18年度高大連携公開授業科目

○ 公開授業科目

(琉球大学における通常の授業科目を全部又は一部を公開し、本学学生と一緒に聴講させる)

No.	学部	学 科 等	授 業 科 目 名	学期
1	法文学部	総合社会システム学科	日本の政治	前学期
2	"	国際言語文化学科	ウチナーグチ入門 (初級)	"
3	"	"	基礎ドイツ語 I	"
4	"	総合社会システム学科	人・組織・管理論 (1組)	"
5	"	"	人・組織・管理論 (2組)	"
6	"	"	国際関係史	"
7	"	国際言語文化学科	琉球語学概論 I	"
8	教育学部	社会科教育専修	大学教育入門－社会編－	"
9	"	児童教育専修	生活指導 (1組)	"
10	"	児童教育専修	特別活動に関する研究 (1組)	"
11	理学部	物質地球科学科	物理学 I (1組)	"
12	"	海洋自然科学科	化学 I (3組)	"
13	"	"	熱帯生物科学概論	"
14	"	物質地球科学科	相対論	"
1	法文学部	国際言語文化学科	ウチナーグチ入門 (中級)	後学期
2	"	"	基礎スペイン語 II	"
3	"	"	基礎ドイツ語 II	"
4	"	総合社会システム学科	少子・高齢化の経済学	"
5	"	"	少子・高齢化の経済学	"
6	教育学部	学校心理学専修	幼児の心理	"
7	理学部	海洋自然科学科	熱帯生物生産学概論	"
8	工学部	電気電子工学科	電気電子材料 II	"
9	"	情報工学科	先端情報工学概論	"
10	"	"	自然言語処理	"
11	"	大学教育センター	沖縄の学力と教育	"

○ 公開講座

(高校生のみを対象とした公開講座を開設し、受講を希望する高校生へ受講させる講座)

No.	学部	学 科 等	授 業 科 目 名	学期
1	法文学部	国際言語文化学科	琉球アジア研究入門	前学期
2	理 学 部	物質地球科学科		〃
3	〃	〃		〃
1	教 育	音楽教育専修		後学期
2		遺伝子実験センター	パソコンでビジュアルな地形図を作ってみよう	〃

○ 出前講座

(高校生のみを対象とした公開講座を開設し、本学教官が出向して受講を希望する高校生へ受講させる講座)

No.	学部	学 科 等	授 業 科 目 名	学期
1	法文学部	総合社会システム学科	国際法入門	前学期
2	〃	〃	高校生のための国際関係論入門	〃
3	〃	〃	高校生のための政策科学入門	〃
4	〃	国際言語文化学科	ウチナーグチ入門 (初級)	〃
5	〃	人間科学科	高校生のための倫理学入門 －いかに生きるべきか考える－	〃
6	〃	法務研究科	中高生のための消費者法入門	〃
7	理 学 部	物質地球科学科	高校生にもわかる相対性理論入門	〃
8	〃	〃	宇宙の始まりに何があったか	〃
9	〃	〃	物質の究極をめざして	〃
10	〃	〃	海と地球環境 －地球・水・海のことを知ってみよう－	〃
11	〃	海洋自然科学科	エントロピーって何？	〃
12	〃	〃	分子の形はどのようにして求められるのか	〃
13	〃	〃	超高速現象を捉える (1兆分の1秒の世界)	〃
14	〃	〃	「光触媒」って何だろう！	〃
15	工 学	環境建設工学科	地球環境保全のための地下空間利用技術	〃
16	〃	情報工学科	新世代放送受信半導体技術 －デジタルを使えば車でハイビジョンが見れる－	〃
17	〃	〃	話しことばの科学	〃
18	〃	〃	データ解析の基礎 (重回帰分析)	〃
19	〃	〃	パソコンでスーパーコンピューティング	〃
20	〃	〃	音響データによる疲弊貨幣識別のはなし	〃
1	法文学部	総合社会システム学科	高校生のための国際関係入門	後学期
2	〃	〃	高校生のための政策科学入門	〃
3	〃	人間科学科	高校生のための倫理学入門 －いかに生きるべきか考える－	〃
4	〃	国際言語文化学科	自分の視野をいかに広げるか －留学の勧め－	〃
5	〃	〃	英語らしい英語の発音：日本語との比較から	〃

6	教育学部	社会科教育専修	地理教育はどのように役立って来たか －開発教育の視点から－	〃
7		〃	憲法入門	〃
8	理学部	物質地球科学科	海と地球環境	〃
9	〃	海洋自然科学科	エントロピーとは何だろう？	〃
10	〃	〃	分子の形はどのようにして求められるのか	〃
11	〃	〃	ミクロの世界	〃
12	〃	〃	化学結合はどうやってできているのか？	〃
13	工学	情報工学科	新世代放送受信半導体技術 －デジタルを使えば車でハイビジョンが見れる－	〃
14	〃	〃	音響データによる疲弊貨幣識別のはなし	〃
15	〃	〃	データ解析の基礎（重回帰分析）	〃
16	〃	〃	データからの分類方法	〃
17	〃	〃	パソコンでスーパーコンピューティング	〃
18	農学	生産環境学科	沖縄の森林・マングローブをまもる	〃
19	〃	〃	沖縄の基地と自然環境	〃
20		大学教育センター	おもしろ心理学	〃
21		遺伝子実験センター	私たちの体を守る「免疫」とは何だろう？	〃
22		総合情報処理センター	携帯電話で用いられている音声の符号化方式	〃

科目数合計 72 科目

4. シンポジウム

今年度が、本センターの創設10周年にあたることを記念して、下記の通り、「地域創造と生涯学習」と題したシンポジウムを開催した（参加者は120名）。

○趣 旨

琉球大学生涯学習教育研究センターの創立10周年を記念し、地域人材の育成による地域創造へと転換しつつある生涯学習施策を展望し、今後沖縄県が取り組むべき課題を明らかにする。

○対 象

教育行政機関の職員、一般行政機関の職員、学校教職員、社会教育団体関係者

○開催プログラム 平成18年 9月22日（金）

13：50～14：00 開会の挨拶		琉球大学長 森田 孟進 沖縄県教育委員会教育長 仲宗根用英
14：00～15：00 基調講演	「日本の未来と生涯学習」	文部科学省初等中等教育局長 錢谷 眞美
15：15～17：15 パネルディスカッション	コーディネータ 「生涯学習支援の構造転換」 「人材育成と大学の役割」 「地域づくりと生涯学習統括論」 「学校からみた地域づくり」	琉球大学教育学部教授 井上 講四 八洲学園大学教授 浅井 経子 琉球大学生涯学習教育研究センター教授 伊藤 康志 からくさ塾主宰 小嶋 明 学校と地域の融合教育研究会会長 宮崎 稔
17：15～17：20 閉会の挨拶		琉球大学生涯学習教育研究センター長 前原 武子

開催に際して森田学長からは、琉球大学が創立当初からアメリカ文教政策の良き影響を強く受け、Land Grant Universityをモデルとしてきたこと、その伝統と使命は、本センターに継承されているとの挨拶があった。沖縄県教育委員会からは、仲宗根用英沖縄県教育長より本センターの活動が紹介され、祝辞が述べられた。

続いて、文部科学省初等中等教育局長で、前生涯学習政策局長の銭谷眞美氏による「日本の未来と生涯学習」と題した基調講演が行われた。基調講演では、生涯学習の現状、生涯学習社会の構築に向けた重点施策、教育基本法の改正など教育改革の取組、今後の課題などが指摘され、「地域の活性化につながる地域貢献・生涯学習の実践には大学の果たす役割が大きい」との激励ともいえる言葉で結ばれた。

その後は、本学教育学部の井上講四教授のコーディネイトにより、パネルディスカッションが行われた。パネリストは、生涯学習研究の第一人者である八洲学園大学教授の浅井経子氏（「生涯学習支援の構造転換」）、議員として長年に亘り生涯学習の街づくりに取組まれてきた「からくさ塾」主宰の小嶋明氏（「地域づくりと生涯学習統括論」）、秋津小学校の実践で著名な「学校と地域の融合教育研究会」会長の宮崎稔氏（「学校からみた地域づくり」）、そして、本学生涯学習教育研究センターの伊藤康志教授（「人材育成と大学の役割」）であり、多岐に亘る指摘が井上氏により、統一的な課題としてまとめ上げられた。

5. 研究セミナー

大学による社会貢献にあって、最も重要な課題とも言える地域人材の育成をテーマに、下記の通り、「地域人材育成とキャリア開発支援」と題する研究セミナーを行った（参加者40名）。

○趣 旨

地域の再生と創造には、如何なるキャリア教育が必要とされるのか。本研究セミナーでは、キャリア教育の第一人者である朝倉氏を迎え、フレキシブル・スクールで全国的に知られる神奈川県立川崎高等学校の取り組みやSOLA沖縄専門学校などの地域的な取り組みに学びながら、若年者の失業率・離職率が深刻化する沖縄のキャリア開発支援を考える。

○対 象

行政職員（生涯学習関係、雇用関係）、雇用関係団体職員、学校関係者（大学、専修学校、高校等）

○開催プログラム 平成19年3月2日（金）

13：25～13：30 開会の挨拶	琉球大学理事 比嘉 辰雄
13：30～14：30 基調講演	「今キャリア教育に求められているもの」 横浜国立大学名誉教授 朝倉 祝治
14：30～16：30 事例研究	①「学びなおしの機会提供推進事業における高大連携『公開セミナー』の実践について」 神奈川県立川崎高等学校校長 岩村 基紀 ②「今、求められるインターンシップからデュアルシステム導入について」 SOLA沖縄専門学校校長 棚田 卓哉 ③「若年者を対象とした『観光起業支援講座』の実践について」 琉球大学生涯学習教育研究センター教授 伊藤 康志
16：30～16：35 閉会の挨拶	琉球大学生涯学習教育研究センター長 前原 武子

セミナーは、大学及び本センターの社会貢献に資する活動が、地域人材の育成という明確な指標を得つつあるという比嘉理事の挨拶に始まり、朝倉先生による基調講演へと進んだ。長年に亘りキャリア教育の研究・実践に取り組まれてきた朝倉氏からは、第一線に立つ技術者の教育には、「ブレイク

ダウン式教育方法」＝「課題掘り下げ型教育方法」が有効であることが提言された。

事例研究では、高等学校、専門学校、大学という立場の異なる発表者から、それぞれの取り組みが報告された。岩村氏からは、高等学校が地域の成人の重要な学び直しの機会となっていること、棚田氏からは、専門学校における人材育成が、企業等との連携によるデュアルシステムを採り、より実践的になっていること、伊藤氏からは、キャリア教育を実施する際には出口の整備もまた緊要であり、転職や企業への後押しとなる資格制度の整備・付与などが重要であるとの報告があった。

6. 研究紀要の創刊

当センターでは、今年度より、「琉球大学生涯学習教育研究センター研究紀要」を発行することとした。掲載論文は公募制とし（特別寄稿は除く）、投稿資格は下記の通りである。

- 生涯学習・社会教育に関する研究を行う大学・研究所等の研究者
- 社会教育主事・公民館主事・司書・学芸員等の社会教育関係職員、学校教育関係者
- 生涯学習・社会教育関係団体の職員
- 生涯学習・社会教育関係学会員
- その他生涯学習・社会教育に関心のある者で国立大学法人琉球大学生涯学習教育研究センター長が認める者

創刊号の本号には、7本の論文を掲載することができた。当センターでは、この研究紀要を、沖縄における生涯学習研究の拠点、学術的な交流の場にしたいと考えている。ご執筆下さった方々に感謝申し上げますとともに、次号への多くの方からのご投稿を待ちたい。

7. ホームページの作成

当センターでは、本年度より公式ホームページを開設した。遅きに失した取り組みではあるが、これからはホームページを通じても活きた情報を提供していきたい。

琉球大学生涯学習教育研究センターホームページ (<http://www.ercll.u-ryukyu.ac.jp/>)

